

全国中学生・高校生防災 ジュニアリーダー育成オンライン研修

事業背景

阪神・淡路大震災、東日本大震災、熊本地震や火山噴火、水害などが頻発している我が国において、次代を担う人材の育成、防災意識と社会参画意識のさらなる向上を目指し、これからの防災・減災の担い手である中学生・高校生を対象に「全国中学生・高校生防災会議」を実施し、今年で4年目を迎えました。

直近2年間は、新型コロナウイルス感染症の影響により開催そのものが危ぶまれる中、災害は「いつ、どこで起こるか分からない」からこそ、このような状況下でも災害に備えることが大切であることから、オンラインでの開催となりました。令和3年度は、各学校の防災・減災のアクションプランを作成することをメインプログラムとし、過年度参加校のみならず、これまで参加したことがない学校にも幅広く声をかけ、この事業が「中高生が防災を考えるきっかけ」となることを目指し開催しました。

事業概要

主催：独立行政法人国立青少年教育振興機構

特別協力：公益財団法人上廣倫理財団

日程：令和3年12月18日（土）・12月27日（月）

対象：全国で防災教育や被災地支援活動に積極的に取り組んでいる、またはこれから取り組もうと考えている中学生・高校生及び教員

参加者：12都府県20校

参加者数：102名（中学生：6名 高校生：75名 教員：21名）

参加校



東北

宮城県多賀城高等学校
岩手県釜石市立釜石東中学校
宮城県築館高等学校

近畿

兵庫県立尼崎小田高等学校
大阪府大阪市立白鷺中学校
兵庫県立舞子高等学校
京都府立東稜高等学校
兵庫県南あわじ市・洲本市組合立広田中学校
京都府京都市立塔南高等学校

九州

熊本県南阿蘇村立南阿蘇中学校
大分県立佐伯鶴城高等学校
熊本県立第二高等学校
宮崎県立福島高等学校

関東

桜美林高等学校
東京都立足立工業高等学校
東京都立秋留台高等学校

中部

愛知県名古屋市立工芸高等学校
新潟県立新潟県中央工業高等学校

四国

高知県立須崎総合高等学校
高知県立大方高等学校



プレ講義

講師による事前講義動画 11月1日～

防災に関する専門家4名の講師による講義動画を事前に公開しました。

講義①

講義テーマ **東京の防災 ～想像と創造で災害に備えよう～**

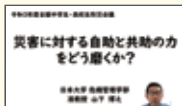
講師 東京都総務局総合防災部防災計画課長
濱中 哲彦 氏



講義②

講義テーマ **「災害に対する自助と共助の力をどう磨くか？」**

講師 日本大学危機管理学部准教授
山下 博之 氏



講義③

講義テーマ **～新潟のNPOからの提案～一緒に創ろう！
みんながみんなとBosaiを学べる提案や仕組み**

講師 特定非営利活動法人 ふるさと未来創造堂
中野 雅嗣 氏



講義④

講義テーマ **今、防災ジュニアリーダーに求められること**

講師 宮城教育大学 特任教授
野澤 令照 氏



参加者からの質問

参加する中学生・高校生からは事前講義動画に対する質問や感想を募りました。参加者からは、全部で40個の質問が寄せられました。

一例

Q1 コロナ禍の災害という言葉が出てきましたが、東京都では災害発生時に避難所でのようなコロナ対策をどのように考えていますか。

Q2 東京防災は多くの人の防災意識を高めるきっかけになったと思います。次にくる災害に備えなければという気持ちはありますが、行動に移せていないのが現状だと思います。どうすれば皆が行動に移せると思いますか？やはり呼びかけや講習などですか？

Q3 大きな災害を経験していない高校生の私たちが、小学生や中学生に災害や防災について教えることについて難しさを感じる時があります。経験をしていない私たちでも上手く伝えられるような方法があれば教えてください。

Q4 災害リスクの都市別ランキングでは、世界が日本をどう見ているかが表れていますが、日本へ観光などで来る外国人一人ひとりには日本が災害大国であることを意識している人は多いですか。

タイムテーブル

12月18日

13:30 開会

主催者挨拶
国立青少年教育振興機構 教育事業部長
西條 英吾

13:35 オリエンテーション

全体ファシリテーター
文教大学人間科学部准教授
青山 鉄兵 氏

13:45 【プログラム①】(全体)
事前講義動画の質疑応答

参加者から事前に投稿された質問に対して、各講師より回答をいただくとともに、当日リアルタイムで寄せられた質問などにもご回答をいただきました。

14:45 【プログラム②】(グループワーク)
事前学習等での学びを共有 (p4cの手法を活用)

ファシリテーター
宮城教育大学特任教授
野澤 令照 氏
グループファシリテーター 宮城教育大学生
参加者を9グループに分け、宮城教育大学生のファシリテートのもと、事前学習等での学びを参加者同士で共有しました。



16:30 【プログラム③】(全体)
アクションプランの作成について

講師
舞子高等学校
榎田 順子 氏
本事業のメインプログラムであるアクションプランの作成について、具体的にどのようなものなのか、どのように作成していくのかを学びました。

17:00 閉会

12月19日～26日

各自でアクションプランの作成！

12月27日

13:30 オリエンテーション

13:45 【プログラム④】(グループワーク)
アクションプランの発表と共有

グループファシリテーター 宮城教育大学生
各自が作成してきたアクションプランについて、グループ内で発表と意見交換を行いました。

15:30 【プログラム⑤】(全体)
各グループの発表内容などを共有

講師からの講評
グループごとに振り返り

17:00 閉会



アクションプランの紹介

27日に発表されたアクションプランの一部を紹介します。

アクションプラン①

「今からやらなくてはいけない防災」

防災は、後でやればいいやではなく、「今から」やらなくてはいけない。皆で意識を変えて、命を守る行動をしてほしいと考えている、特に災害を経験したことが無い地域の10代は防災意識が低いと感じている。小学生、中学生、高校生の防災意識に働きかけたい。

学校に地域の人や、小学生、中学生、高校生を招き、被災経験のある方や防災に関する知識を有している方を講師として学びを深めるほか、様々な年代を交えたグループワークを行う。

グループワーク内では、「今から自分たちに何ができるのか」をテーマに話し合い、例えばハザードマップの作成や、防災バッグの作成などにつながると良いと考えている。

大切なことは、地域との団結力、人と人との協力だと考えている。



アクションプラン②

「避難訓練改善プラン」

私の高校では、避難訓練はいわば流れ作業のような形になってしまっている。基本的に避難訓練は年1回かつ、先生がいることが前提であり、自分たちで考える機会がない。

自分たちの世代で東京に住んでいる人はあまり大きな地震を経験したことが無い人が多く、避難訓練となれば、「寒いからやりたくない」「面倒」といった声が聞こえてくるような状態であり、防災意識は低いと感じている。

今回のアクションプランは、この防災意識の改善を目指し、①災害別の避難訓練（地震パターン、火事パターン、水害パターン等）、②完全予告なし防災訓練、③避難訓練の質の向上（避難経路、消火器、AEDの位置確認、段ボールや椅子などを活用してリアルな避難状況を作り出す、人が倒れたときの対応策などを学ぶ等）

私たちが変わること、周りの同級生のみならず各家庭にまで防災の輪が広がっていくことを願って、このアクションプランを実施したいと考えている。



グループワークの様子（参加者の声）

- 自分事として防災を考えられるようにしたい。
- 災害時、どれくらいの備えがあれば良いのか、何をどう対応したらよいのか等、色々なことが話題になっていたが、自分自身は東京で生まれ育っており、大きな災害を経験したことが無い。防災会議で、自分たちと同じ年代で、災害を経験したことがある人と話できて、勉強になったと同時に、今のままではダメだ。と感じた。災害の被害を調べることや、少しでも周りの友達が防災や減災を考えることができるように先生とも相談しながら意識の改革に努めていきたい。
- 被災経験のある地域だが中学生である自分は、ほとんど記憶がない。ただ、学校では多くの取組がされていて、少しその理由が分かった気がする。また自分の学校とは違う取り組みがあり、勉強になった。
- 災害を経験したことのある学校の子は、「地域」との繋がりを大切にしていた。災害時には地域の人たちと協力する必要がある。災害が起きたその日に突然協力し合うより、普段から交流があった方が、災害時にもスムーズに協力し合える。という言葉に考えさせられた。
- お互いのいいところを吸収し合って、より良いものができたように感じた。
- 被災地だからなのか、防災についてある程度の意識は全員が持っている環境にいる。例えば、進学で東京へ行ったら、静岡に行ったら、首都直下型地震や富士山噴火など、色々な災害が想定される中で、同世代が必ずしも同じ危機感を持っているとは限らないと感じた。どうしたら伝えられるのか、どうやったら伝わるのか、一緒に考えられるのか。先生が無理やり考えさせるよりも、同世代間で話し合ったり、考えたりできた方がいいと思った。
- 今回の会議に参加して、アクションプランを考えた。それだけでもまずは防災に関して考えるきっかけになった。あとは周りの先生に働きかけて、実際にそれを実行していきたい。
- 小中高が近くにある。私たちが、自分たちよりも歳下の子に防災体験をさせてあげるなど、できることがあるのではないかと考えさせられた。

桜美林高等学校

Aさんより



初対面の方とのオンラインでの交流は初めての経験だったので、とても緊張しました。しかし、時間を重ねていくたびに意見を積極的に話せる様になり、様々な年齢、様々な地域の方との交流から、多様な考え方に触れることができ、勉強になりました。

特に印象に残ったのは防災訓練についてです。防災科の生徒さんから、障害物に見立てた新聞紙や段ボールを廊下に散らばせ、生徒や先生に怪我人の役をしてもらい実際に運び込む避難訓練を月に何回も行っていると教えてもらいました。日常的には、笛や紙の地図を持ち歩いていることで、改めて自分の防災意識の低さを思い知らされました。確かに地震は誰の身にも起こりうることです。まずは自分の身の回りの備えから始めていきたいと思います。そして避難訓練に関しては、今回学んだことを踏まえ、プロジェクトメンバーと学校へ働きかけていけたらいいなと思いました。

アクションプラン実施報告①

大阪府大阪市立白鷺中学校

「全校生徒で予告なし避難訓練をやりたい！」アクションプランを立案したのは生徒自主防災チーム「防災 ALT (防災 Active Learn Team)」のメンバーです。大きな地震が起きた時、自分自身が考え、身を守る最善の行動がとれることを目標にした計画です。1月の全校放送やぼうさい通信の発行などを通じて生徒の皆さんへの積極的な訓練参加・協力を呼びかけ 2022 年 3 月 4 日に実施することができました。防災 ALT は生徒会役員、保護者の皆様と合同で防災研修を行いました。これからも「つながり」を大切にし防災の活動を充実させていきます。



アクションプラン実施報告②

京都府立東稜高等学校

2月末に放送部とのコラボ企画として、防災を学習するライフマネジメントクラスによる校内放送『マネジメントチャンネル』を行いました。今回は防災会議の参加報告として、同じグループになった桜美林高校、舞子高校の防災の取り組みの紹介を行いました。

来年度に『マネジメントチャンネル』の定期的な放送を行うための準備を進めているところです。ライフマネジメントクラスの生徒達が授業を通して学習した内容から、東稜高校生に知ってもらいたいことや、役立つ情報を発信します。学校内の防災意識を高めるとともに、学校の活性化に繋がるよう、ライフマネジメントクラスの取り組みを通して全校生徒に防災を届けていきたいと思います。



※ライフマネジメントクラス

東稜高校普通科キャリアコースに属する防災・環境・公共を学ぶクラスです。2 年次から週 4 時間、防災・環境・公共の分野を学び、学習を通して地域のリーダーとなる人物を育成します。

これまでの「全国中学生・高校生防災会議」



平成 30 年度 全国中学生・高校生防災会議 ～全国防災ジュニアリーダー育成合宿～

日時 平成31年1月11日(金)～13日(日)
主管 兵庫県立舞子高等学校、
参加校 国立淡路青少年交流の家
31校
参加者 94名(中学生16名/高校生55名/教員23名)



令和元年度 全国中学生・高校生防災会議 ～全国防災ジュニアリーダー育成合宿～

〈東北会場企画〉平成31年1月11日(金)～13日(日)
日時 令和元年8月17日(土)～19日(月)
主管 宮城県多賀高等学校、
国立花山青少年自然の家
参加校 17校
参加者 91名(中学生5名/高校生59名/教員27名)



令和2年度 全国中学生・高校生防災会議 ～全国防災ジュニアリーダー育成合宿～

日時 令和2年12月26日(土)
主管 国立青少年教育振興機構
参加校 31校
参加者 166名(中学生:33名、高校生80名、教員53名)

〈熊本会場企画〉

日時 令和元年11月15日(金)～17日(日)
主管 熊本県立熊本第二高等学校、
国立阿蘇青少年交流の家
参加校 20校
参加者 74名(中学生9名/高校生41名/教員25名)



◀記録集ダウンロード 国立青少年教育振興機構ホームページ

<https://www.niye.go.jp/services/plan/bousai/archive.html>

〈発行〉国立青少年教育振興機構 教育事業部 事業課

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町 3-1 電話番号 03-6407-7201 (代表)